



令和5年9月11日
海上保安庁

第19回アジア海上保安機関長官級会合への参加について (結果概要)

9月5日(火)から8日(金)、トルコ・イスタンブールで開催された「アジア海上保安機関長官級会合」に海上保安庁から石井昌平長官が出席しました。

会合では、各国の取組や好事例を情報共有するとともに、今後の活動について議論がなされ、「メンバー間の連携を維持・発展させること」に同意する「共同声明」が採択されました。また、各国とのバイ会談も実施され、さらなる連携・協力を確認しました。

本会合は2004年に我が国の主導により開催されて以降、19回目を数え、今回の会合において20回目となる2024年の会合を「韓国」で開催することも決定しました。

1 日程概要

日時：令和5年9月5日(火)から9月8日(金)まで
場所：トルコ・イスタンブール

2 参加国・地域等

今回の会合では、下記メンバーのうちラオス、モルディブ、カンボジア、ミャンマー、ブルネイを除く、17カ国、1地域、2機関が参加しました。

① 正式メンバー (22カ国、1地域)

オーストラリア、バーレーン、バングラデシュ、ブルネイ、カンボジア、中国、フランス、インド、インドネシア、日本、韓国、ラオス、マレーシア、モルディブ、ミャンマー、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、トルコ、ベトナム、香港(中国)

② アソシエイトメンバー (2機関)

UNODC-GMCP、ReCAAP-ISC

3 主な会合成果

- ・ 「捜索救助」、「海洋環境保全」、「海上不法活動の予防・取締り」、「人材育成」及び「情報共有」の5分野について各国発表事項
- ・ 共同声明を採択(別添)
- ・ 2024年のホスト国を選出



各国機関長官級集合写真



トルコ沿岸警備隊長官との挨拶の様子



バイ会談の様子



海上保安庁長官スピーチの様子

共同声明（仮訳）

第19回アジア海上保安機関長官級会合

（2023年9月7日採択）

オーストラリア、バーレーン、バングラデシュ、ブルネイ、カンボジア、中国、フランス、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、ミャンマー、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、トルコ、ベトナム、香港（中国）の本会合メンバーである22カ国、1地域の海上保安機関の長は、ReCAAP-ISC、UNODC-GMCPのアソシエイトメンバーとしての参加を得るとともに、2023年9月7日にトルコのイスタンブールで実施された第19回アジア海上保安機関長官級会合（HACGAM）に参加できなかったラオス、モルディブ、カンボジア、ブルネイ、ミャンマーを含め、各海上保安機関の権限及び任意参加の原則を最大限尊重するとの枠組みにおいて、

地域の海上安全の確保と促進のため、連携を強化することを確認し、2014年に横浜で開催された第10回HACGAMの共同声明に基づき、会合メンバーの連携を継続し、主体的に同会合の枠組みを活用することにより、安全で、美しい、アジアの海を未来に繋げていくことを合意したことを想起し、

HACGAMの基本思想であるペーパーワークからフィールドへという考え方に基づき、より実務的な協力関係を強化していくことの重要性を認識し、

「捜索救助」、「海洋環境保全」、「海上不法行為の予防・取締り」、「人材育成」及び「情報共有」に対応する5つのワーキンググループが、議長国であるインド、スリランカ、中国、パキスタン及びオーストラリアのイニシアチブの下、「安全で、美しい、アジアの海」を維持・確保するための取り組みを前進させていることを認識し、また、ReCAAP-ISCによるアジアの海賊・武装強盗の最新情勢に関する報告では、HACGAMメンバー、ReCAAPフォーカルポイント、各国法執行機関の努力により、アジアの海賊・武装強盗の状況は改善されてきているとの報告を受け、

韓国の2024年HACGAMのホストへの寛大な申し出と全メンバーの招待に感謝し、

トルコ沿岸警備隊による本年2月の大地震に被災しながらもHACGAMの対面開催にかかる多大なる努力と素晴らしい調整に感謝し、

我々は、国家間の海上保安に関する連携が、地域の海上安全の確保と促進に有効であると確認し、「安全で、美しい、アジアの海」を確かなものとするため、この連携を維持・発展させることに同意した。